

秋季企画展

【発掘速報展】

# 樋山地区で発掘された 製塩遺跡

—北潟湖周縁の歴史と生業—

あわら市郷土歴史資料館

〈一般展示室 企画展示ケース〉

北潟湖は古えより人々に恵みをもたらす源でした。先史時代から処々に先人が営んだ足跡がしるされ、生の根源とも云える塩が遥か古代より生産されていた事実も、昨年発掘が行われた樋山遺跡の調査により裏付けられた。

そうした北潟周縁の生業や、古代土器製塩の先進地域のひとつに数えられる若狭湾沿岸に比べこれまで実態が詳らかでなかった嶺北地方の古代塩業について、今回の展示を通してより一層理解が深まることで、昔が今に繋がる縁の一助となれば幸いです。

## 【北潟湖周縁の先史遺跡】

北潟湖周縁においては、古くは“矢ノ根石”が「此あたりより浜坂浦の海辺に至、時々拾ひ得る事あり」（『越前國名蹟考』）と記され、嘗て波松遺跡からは押圧縄文土器とも目される資料が採集されもした。『芦原町史』には、北潟丘陵地の波松字西山から採集された3点の石器が掲載されている。そのうち1点は、縄文時代草創期の所産たる「有茎尖頭器」と識別され、あわら市の黎明期を彩る。

一方、加越台地南縁に並列する中期の貝塚群と時期を同じくして、北潟湖東岸の丘陵上に縄文集落が展開する。蓮ヶ浦集落北西には知原遺跡（貝塚）などが、より北上した位置の下位段丘上には吉崎音部遺跡が所在する。両者からは中期のみならず後期以降の資料も検出、集落は長期間継続していたことが知られ、縄文土器の紋様は各地との交流の様子をもの語っている。また、吉崎音部遺跡からは祭祀系遺物のひとつである石冠も出土し、環境変化に呼応する当時の精神文化の一端をも窺える。

### ・西山遺跡（福井県立歴史博物館所蔵）

有茎尖頭器 1（『芦原町史』所収）

### ・北潟湖周辺（福井県立歴史博物館所蔵）

石 器 5（『芦原町史』所収・西山採集2含）

石 器 5（磨製石斧片1、石錘4）



## ・吉崎音部遺跡

石 鏃	3
石 冠	1

## ・北潟湖周辺（福井県立歴史博物館所蔵）

縄文土器	25（『芦原町史』所収・知原貝塚含、 脚部 1、底部片 2） （中期主体・加曾利 B 式注口肩部 1、 信越大木系・瀬戸内系有）
石 器	2（石皿 1、磨石 1）



## ・蓮ヶ浦周辺

縄文土器	4（底部片 1 把手 1）
------	---------------

## ・吉崎音部遺跡

縄文土器	18（中期～晩期、東海・咲畑式系有）
石 器	3（打製石斧 2、石皿転用？1）



## 【北潟湖周辺の製塩遺跡】

日本には岩塩などの資源が存在しないので、入浜式・揚浜式など“塩浜”の形態が整う以前の古代は、土器製塩などの方法によって海水から塩を採取した。

『芦原町史』には、北潟湖北側低地の西長割遺跡から採集された土製支脚が掲載され、こうした資料から北潟湖周辺でも土器製塩が行なわれていたと推測されていた。昨年発掘調査が実施された樋山遺跡では、拳大の礫を水平に敷き詰めた製塩炉や L 字状・弧状の溝状遺構、土製支脚などの製塩土器が多数検出され、平安時代の塩づくりに関連した遺跡であることが判明した。北潟湖の近隣で実際に製塩炉を確認した貴重な事例である。

生産効率の低い土器製塩に代わって、大量に製塩できる揚浜製塩が盛んになる。すでに室町時代応仁の乱の頃、北潟海岸で揚浜製塩が行なわれていたことが大乘院文書よりうかがえ、江戸時代波松村での製塩は丸岡藩の統制下に置かれていた。しかし、明治 38 年に塩の専売法が公布され製塩も廃止された。

## ・西長割遺跡

製塩土器	3
土製支脚	16（『芦原町史』所収含）



・樋山遺跡 （福井県教育委員会所蔵）

製塩土器（大片） 5

製塩土器片 52

製塩土器支脚 12（一体型 4 点含）

須恵器 6

製塩炉 復元（一部）



樋山遺跡全景

（福井県教育委員会提供）



## 【越前海岸の製塩遺跡】

“角鹿の塩”と謳われた如く、若狭湾沿岸は土器製塩の先進地域のひとつに数えられ、古墳時代以降の変遷過程が検討されている。一方、越前海岸では製塩遺跡の調査例が少なく、古代塩業の実態は未だ不明な点が多く残存している。

川端遺跡は、加越台地が日本海に接する先端部の緩斜面に立地、昭和 46 年の踏査報告、同 52 年には試掘調査を経て、同 55 年民宿建設に伴う発掘調査では、住居址 8、土壇 7、溝 2 条等が検出され、製塩集団の生業を把握する上で、多くの資料を提供した。

藻取浜遺跡は、日本海の荒波にあらわれた海岸の断崖に露出、嘗ては土器片が下の岩場に散乱していたと云う。然り乍ら、遺跡の主要部分は波浪により浸食され、消滅してしまったと断定されている。

厨海円寺遺跡は、越前海岸の段丘上に立地、平成 6 年度実施された国道改良工事に伴う発掘調査に於いて、塩業関連では製塩炉、石敷とそれに付属する排水溝、9 世紀以降に帰属する製塩土器などが検出されている。付属排水溝は、鹹水を作る施設の基礎部分と見做された。嶺北地方に於ける製塩遺跡調査例の極めて少ないなかで、炉を伴う製塩遺跡調査の初例とされる。



・川端遺跡 (若狭歴史博物館所蔵)

製塩土器 17

焼成粘土塊 2

須恵器 7

土製品 1

(みくに龍翔館所蔵)

製塩土器 5 (土製支脚 4、器台 1)

・三国町海岸部 (若狭歴史博物館所蔵)

土製支脚 4

・藻取浜遺跡 (若狭歴史博物館所蔵)

縄文土器 5 (中期、底部 1)

製塩土器 11

須恵器 1

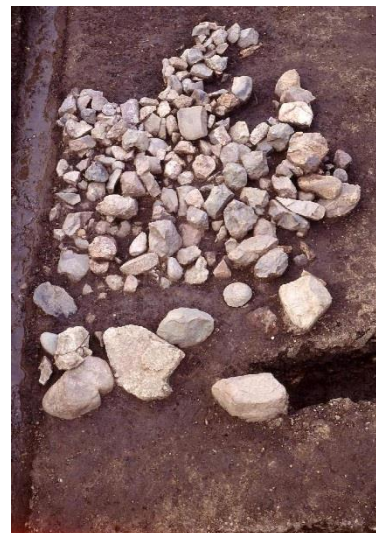
土師器 1 (高坏脚部)



・厨海円寺遺跡 (福井県教育委員会所蔵)

製塩土器 3

土製支脚 18



厨海円寺遺跡製塩炉跡

(福井県教育委員会提供)

会 期：9月9日(火)～12月23日(祝)

開館時間：9：30～18：00

(最終入館は17：30まで)

休 館 日：毎週月曜日、第四木曜日

(その日が祝日の場合はその翌日)

お問合せ：電話0776-73-5158

e-mail maibun@city.awara.lg.jp

講演会

古代の塩と人

講師：福井県埋蔵文化財調査センター

主任 鈴木 篤英 氏

日程：11月29日(土) 13：30～

場所：市民文化研修センター 研修室1

(金津本陣 IKOSSA 3階)

対象：どなたでも(事前申込不要、無料)